

かごしま幕末絵巻

～小松帯刀の目線でみた幕末の物語～

— 第5巻 —

薩長同盟、成る



小松帯刀
坂本龍馬
桂小五郎
西郷隆盛

幕末偉人列伝



薩摩の名家老 小松 帯刀

Tawewaki Komatsu

幕末薩摩を牽引した家老。朝廷の公家や幕府の老中との交渉も担当した。明治政府において小松の部下だった大隈重信は、彼のことを「容貌風采共に立派な、気品の備わった」人物であったと評している。

小松帯刀：国立国会図書館

ようやく薩長同盟が成立！
一息つく龍馬さんですが……

IJIN MANGA

～小五郎君は心配性～



一刻も早く藩主に報告したい。条項が合ってる と証明する真書きをしてくれー！

薩長同盟 成立... これでひと安心じやき〜

坂本さん、桂さんから書状です

坂本さん！ 僕は不安だ！ は!? 桂さん!

薩長同盟、成る！ 強く豊かな国づくりへ

坂本龍馬の立会いの下、ついに薩長同盟が結ばれました。強く豊かな国づくりにむけて、両藩が動き出します。薩摩の名家老、小松帯刀の目線で振り返る幕末の物語。

〈慶応二年正月〉京都御花畑

朝廷では、長州藩を攻めるかどうか激しい議論が繰り広げられていました。我が薩摩藩は戦を避けようとして、幕府や朝廷に対して再三説得しました。仮に幕府側が長州藩に勝利した場合、一橋慶喜公をはじめとするごく少数の人物による日本の統治体制が維持され、それは我々薩摩藩の望む内政治の在り方とは異なります。また、内戦によって外国に付け入る隙を与えることにもなってしまいます。それらを守るためにも、我が藩は長州藩と協力して、「強く豊かな新しい国の在り方」を描かなければなりません。この頃、名前を「木戸」と改めた桂さんが長州藩の代表として京都に潜入。私が京都の住処としていた御花畑に滞在していました。桂さんは、昨年夏に西郷が下関に寄って会談する

これら政局の変動を藩主に報告するため、急ぎ国元へと戻りました。

〈慶応二年二月〉桂から龍馬への手紙

一月下旬の会談の後、桂さんの書状が龍馬さんに届きました。先日の会談の内容をまとめたので確認してほしいという、几帳面な性格の桂さんらしい内容でした。会談の内容を自らの藩に見せ安心させたかったのでしょう。書状に書かれた同盟内容は次の六か条です。
一条、幕府と戦争になった場合には薩摩藩が京都・大坂に藩の軍勢を送り、幕府をけん制すること。二条、もし長州藩が勝利を収めそうな場合には、薩摩藩が朝廷と長州藩との間を取り持つこと。三条、もし長州藩が敗北しそうな場合、敗北するといっても半年や一年で壊滅することはないので、薩摩藩はその間に長州藩のために尽力すること。四条、幕府が江戸に兵を引き上げた時には、薩摩藩が朝廷に直接長州藩を許すようお願いすること。五条、長州藩が朝廷から許されることを幕府が妨害してきた場合、武力行使の覚悟を持つこと。六条、長州藩が朝廷から許された時には、両藩で共に天皇を中心とした新しい国づくりに力を注ぐこと。
龍馬さんは、会談で話し合った内容と全く相違ないと、書状の裏面に朱書きで返信をしたためました。
幕府の軍勢はいよいよ動き始めましたが、薩摩藩の支援を受けた長州藩の準備は万端です。同盟の真価が今、発揮されようとしています。【次巻につづく】

物語の舞台裏



園林寺跡

—日置市—

小松帯刀とその一族が眠る地。明治3年(1870)、大阪で亡くなった帯刀は、はじめ同地に墓が建てられたが、その6年後、彼が治めていた吉利(日置市日吉町吉利)に改葬された。

〈交通アクセス〉
JR伊集院駅から車で約20分
鹿児島県日置市日吉町吉利5004-3
〈問い合わせ先〉
日置市日吉支所地域振興課
Tel.099-292-2111

次巻「新時代への道」の巻

【画：KENRO 本文監修：南九州歴史学会】